



発行 まつざき誠 後援会
中津川市苗木 2110

TEL 0573-66-6926

FAX 0573-65-6924

(デンソーテン労働組合内)

まつざきタイムズ

会派視察研修

1月30～31日に所属会派“市民クラブ”の視察研修を、他の会派と合同で実施しました。

1日目は**教育相談や不登校の取り組み**について、大阪府岸和田市を訪問。全国平均を上回る不登校を抱える中で、“**教育相談室**”では校長経験者が相談員となり、児童や保護者の対応にあたり、学校や家庭での悩みなどに経験を生かした指導がされていました。“**子どもサポートルーム「エスパル」**”は、登校できない児童生徒の受け皿となり、小集団活動や個別の学習指導などを通じて、社会的自立や学校への復帰を目指す取り組みが行われており、近年ではタブレットPCを使ったオンラインによる支援にも取り組んでいました。当日は教育委員会に出向されている教員の方が説明してくださり、学校や家庭など様々な要因に対応するには、担任を補助する人員が必要であることや、更なる支援拠点と人員の拡充を求められるなど、自身の経験を交えた早期復帰に向けた考えをお聞きすることができました。



＜まつざきの考え＞ 中津川市でもコロナ過以降に不登校者数が増加し、昨年度はピークで200名近くに達しています。教育委員会と校長会が連携し、R6年度は不登校対策専門助手の増員や各校の取り組みを蓄積する活動が進められており、岸和田市より手厚い対応がされていました。今後の推移を注視して参ります。

2日目は中心市街地の再生など、先進的な**まちづくりの取り組み**を行っている和歌山県和歌山市を訪問。市街地の拡大による街なかの空洞化や人口減少が進む中で、統廃合した学校や公共施設を活用した大学の誘致（5大学・2,000名の学生）や、市民が積極的に参加した賑わいの創出、住民をメインターゲットにした駅前再開発など、これまでの取り組みや成果を確認。後半は庁舎周辺を案内していただき、事例を見ることで理解を深めることができました。県都として人口規模や地形に恵まれているとはいえ、順調に計画が進んでいる理由を職員に伺ったところ、市長公約を実現するために必要な組織づくりと、住民や民間事業者も巻き込んだ取り組みを、市長や執行部が率先して行った結果ではないか、との事でした。とにかく職員が自信を持って説明する様子に感心しました。

＜まつざきの考え＞ 中津川市はリニア駅周辺整備をはじめ、中心市街地の活性化、にぎわいプラザ跡地活用など多くの“まちづくり”を抱えている中で、限られた予算や人材をどの様に使うのかを明確にして、計画通りに進めることが必要と考えます。



統廃合された校舎に誘致された大学



社会実験中の夜の屋台



遊休施設をカフェにリノベーション



リノベーションされたアーケードの店舗

活動トピックス



小坂恵那市長による点火

根の上高原どんど焼き (1/26)



自分の身を守る準備を

災害ボランティアリーダー講座 (2/8)



美しい音色です

苗木文化交流まつり (2/16)

1 月補正予算 (1/24 専決)

補正の規模 7 億 5,007 万円



◆エネルギー・食料品等価格高騰対策

・子育て世帯物価高騰支援給付金の支給(市独自)・2 億 2,460 万円

(子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、児童一人あたり 20,000 円を支給。対象は 1 月 31 日に住民登録がある高校生年代までの児童等を養育する保護者)

・住民税非課税世帯に低所得者支援給付金の支給・・・2 億 276 万円

(特に家計への影響が大きい住民税非課税世帯に対して、1 世帯あたり 30,000 円を支給。また、当該世帯に 18 歳以下の児童がいる場合、1 人あたり 20,000 円を加算支給)

・定額減税補足給付金(不足額給付分)の支給・・・2 億 6,850 万円

(令和 6 年に実施した調整給付額に不足のある方等に対し給付金を支給)

◆緊急対応が必要な事業

・凍結防止剤散布に係る経費を増額・・・・・・・・・・ 5,420 万円

2 月の主な行事

- 2(日) デンソーテン チャリティー講演会
- 6(木) 全トヨタ議員団定例会(刈谷市)
- 7(金) デンソーテン労組 中央委員会
- 8(土) 災害ボランティアリーダー研修
域学連携成果発表会
- 10(月) 全員協議会
議員連絡協議会
- 11(火) ユタクラブ研修会(碧南市)
- 12(水) 落合地区学校統合準備会
- 21(金) 落合地区 区長会
苗木地区 区長会
- 25(火) 本会議(初日)～3/27(木)
濃飛横断自動車道問題対策協議会
- 28(金) 中津 8 区 役員会

次世代型農場の視察



2月6日に全トヨタ労連の愛知県議・刈谷市議・知立市議の仲間で、愛知県刈谷市の次世代型農場“でんでん村”を視察しました。この施設ではミニトマトが水耕栽培されていますが、カーエアコンの技術を応用した温湿度調整や水やりの自動化、蔓も束ねられ腰の高さにあるなど、作業者の負担を減らす工夫がされていました。通年収穫も可能で近隣の高齢者なども働いているそうです。しかしながら利益を得るためには既存農業との差別化が必要で、粒の大きさや糖度の調整、夏場の育苗、顧客の開拓など人の知恵と工夫が必要で試行錯誤の連続との事。中津川市で点在する耕作放棄地などで事業化できないか、調査研究を進めたいと考えます。

デンソーアグリテックソリューションズの技術紹介はこちら⇒



ここで説明を受けています



室温 38℃

蔓の束ここにがあります

域学連携成果発表会を聴講

2月8日に開催され今回初めて聴講しました。13の大学や高校が地場産業や観光・定住など、地域の課題を様々な観点から調査分析した成果を報告されました。長年継続して活動し地域に溶け込んでいる大学や、定住を学生目線で考える大学・高校、観光地や市内で住民や来訪者にインタビューした結果など、興味深い報告を聞くことができました。来年以降の活動に期待すると共に、報告がどのように反映されるのかを確認していくきっかけになりました。

中津川市の域学連携事業はこちら⇒



発表の様子



小栗市長の講評

自動車総連
組織内議員

参議院議員 てつじ
いそざき哲史
仲間の思い、かたちにしたい。



<情報を随時更新中>

公式ホームページ

<https://matsuzaki-makoto.jp/>Eメール：info@matsuzaki-makoto.jp

ホームページ



LINE



Facebook



Instagram

携帯電話：090-7257-6588